

キャラクター名 プレイヤー名

ポラー・センチメント

メインクラス	シーフ	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	ダンサー	Lv.1:	ダンサー	性別	♀
称号クラス				年齢	20
種族	フィルボル			境遇	大成功
出自(効果)	神官			目標	金銭

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	6	12	12	7	12	11	8
ボーナス	2	4	4	2	4	3	2
クラス修正	0	1	2	0	1	1	1
他修正							
能力値	2	5	6	2	5	4	3

HP	41
MP	44
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ファインダガー	至近	0	6	0	0	0	0	0
左手	ファインダガー	至近	0	6	0	0	0	0	0
頭部	サークレット					2			
胸部	ローブ					2			
補助	マント					1			
装身具	シーフズツール								
能力値			5	0	6	0	4	11	7
スキル								3	
その他									
総計(右)			5	6					
総計(左)			5	6	6	5	4	14	7
総計(両)			5	12					m
ダイス数			3 d	2 d	3 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 3 d
トラップ解除	5			5	+ 3 d
危険感知	5			5	+ 3 d
エネミー識別	2			2	+ 2 d
アイテム鑑定	2			2	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定	4			4	+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	ハイMPポーション
バックパック	
ポーションホルダー	
火酒	
-----ホルダー内-----	
ハイMPポーション	
ハイMPポーション	
ハイMPポーション	
ハイHPポーション	
万能薬	
ハイMPポーション	

現在重量: 6

最大重量: 8

所持金: 880

預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ニンプル	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 作成時に行動値+3								
ワイドアタック	1	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中		
効果: 武器攻撃を行う。命中判定の達成値に+SL								
アームズマスタリー短剣	1	-	パッシヴ	-	自パフ	-	1	
効果: 短剣の命中判定に+1D								
インタラプト	1	-	効果	視界	単体	自動成功	1	
効果: タイミング: パッシヴ、アイテム以外を打消し								
ダンシングヒーロー	1	-	判定直前	-	自パフ	自動成功	1	
効果: 1シーンに一回								
ソードダンス	1	5	マイナー	-	自パフ	自動成功	1	
効果: 白兵攻撃のダメージに敏捷+								
ピアシングストライク	2	5	判定直前	-	自パフ	ダメージ	3	
効果: ダメージに+[SL]D								
バタフライダンス	1	-	パッシヴ	-	自パフ	-	1	
効果: 回避判定に+1D								
ドッジムーブ	2	2	リアクション	-	自パフ	回避	5	
効果: 回避基準値に+SL+2								
アンビデクスタリティ	1	-	パッシヴ	-	-	-	1	
効果: 両手の短剣を武器として使うよ!								
ミュトスノウリッジ	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 神話/伝説に対する知力判定に+1D								
ファインドトラップ	1							
効果: トラップ探知に+1D								
リムーブトラップ	1							
効果: トラップ解除に+1D								
サーチリスク	1							
効果: 危険感知に+1D								
効果:								

「いーから黙って儲け話もってきてよ。もう
 "無笑の鉄面皮"と呼ばれる程笑顔の無いフィルボル。
 笑顔の温かみを何処かで忘れたのか、人との触れ合いをあまり好んでない。
 しかし、触れ合おうとはする。自身ではその理由が何なのか全くわかってない。

彼女の家族は清貧を心掛ける神官の生まれであったが、過去に幾度となく破産し夜逃げ、その度に辛酸を舐め続けてきた。
 その度に彼女は笑顔を失ってゆき、今に至ると全く笑わなくなる。
 そしてその生活で一つ学んだことがある。
 「この世界は稼がねば生きていけない」と。
 そうと決めた彼女の行動は早かった。
 プライドも尊厳も捨て去った捨て身の商売の数々、それはもう筆舌に尽くしがたいほど悲惨な仕事も受け持った。
 ____それから数年。彼女は"勝者"となる。
 しかし満たされないのは何故だろうか。もう取り繕った笑いも、煽るような声色も出さなくて良い。夜逃げの心配もない屈辱の日々も無い。
 いつしか"無笑の鉄面皮"と呼ばれるようになった彼女は思う。
 彼女の家族が心掛けていた"清貧"とは何だったのか。
 今の彼女の生活とは正反対の、清らかで貧しい日々。
 そして心の穴を埋めるのがとく、彼女はギルドの門を叩いた。
 ここには彼女の喪失感を晴らすことができるものがある。と信じつつ____